

日本遺産「里沼 (SATO-NUMA)」の現状・課題と今後について

令和元年度に文化庁から日本遺産の認定を受けた「里沼」に係る、認定後3年間の国庫補助事業が令和3年度をもって終了しました。今後3年間(令和4～6年度)は、本市独自の予算で各種事業に取り組まなければなりません。そこで、これまで手掛けた里沼事業と今後の方向性について報告します。

1 「里沼」事業と国庫補助制度

\*( )内の金額は総事業費 単位：千円

年度	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8
文化庁 日本遺産制度	申請 準備	認定	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	再審査	
国庫補助① (100%) 文化芸術振興費 補助金		1年目 (10,852)	2年目 (8,903)	最終年 (8,910)	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;">                     市単費(市→協議会補助)                      ※ふるさと納税・企業版ふるさと納税、                      新たな補助メニュー等も検討していく                 </div>				
		(人材育成/普及/調査)							
国庫補助② (65%) 文化資源活用 事業費補助金		1年目 (26,505)	2年目 (13,088)	最終年 (13,611)					
		(情報発信/活用整備)							
主な動き		推進協議 会	メンバー ション	両毛3市	→①活動者の自走 →②資金面の自走				

(1) 日本遺産認定後は、申請時に「地域活性化計画」に記載した事業を6年間実施することが求められ、最初の3年間は国庫補助(①及び②)を受けて各種事業を実施しました。国庫補助(①及び②)終了後の認定4～6年目についても、本市では引き続き各種事業に取り組まなければならないため、令和4年度以降は市単事業と推進協議会事業(補助金支出による事業)を並行して展開しています。

(2) 日本遺産の認定から6年経過後(本市の場合、令和7年度)に、文化庁の日本遺産審査・評価委員会が事業効果測定・ヒアリングによる再審査を実施し、地域活性化が進んでいない場合は、日本遺産の認定が取消しとなります。(令和3年度から認定取消しと予備候補地域選定が新たに導入され、段階的に入替え等が実施される予定です。)

## 2 地域活性化事業

日本遺産「里沼」の地域活性化事業は主に館林市「日本遺産」推進協議会事業として実施し、文化庁補助の対象外事業や小中学校及び公民館との連携事業については市単事業として取り組みました。館林市「日本遺産」推進協議会事業は、次の6分野18事業です。各事業の主な内容は、表の最右欄記載のとおりです。各事業の詳細をまとめたものが別紙資料となります。

	区分	事業名	主な内容	
文化芸術振興費補助金 (地域文化財総合活用推進事業)	(1)人材育成	①「里沼」ランドナビゲーター育成支援事業	講座、ガイド育成	
		②館林市「日本遺産」ブランド開発事業	ロゴ作成、館林紬ワークショップ	
		③館林市「日本遺産」地域プロデューサー活動支援事業	武鷹館イベント、動画・読本	
		④官学連携「SATO-NUMA」事業	ガイド手引き、沼マップ検討	
		⑤「里沼」体感！ワークショップ事業	かるがも笛、ミニよしず工作	
	(2)普及啓発	①館林市「日本遺産」展示会開催事業	学校・公民館巡回、市外PR	
		②館林市「日本遺産」シンポジウム開催事業	里沼シンポ、両毛3市連携	
	(3)調査研究	①館林市「日本遺産」戦略的マーケティング調査事業	ニーズ調査、商品化・ツアー	
		②館林市「日本遺産」旅客ニーズ調査事業	メディア・旅客業者対象モニター	
	(4)その他	①日本遺産サミット等開催事業	日本遺産サミット参加	
	文化資源活用事業費補助金 (観光拠点整備事業)	(1)情報コンテンツ作成	①館林市文化財ルネッサンスによる「日本遺産」PR事業	プレート設置
			②館林市「日本遺産」Webサイト開設事業	SATO-NUMA. JP設置
③館林市「日本遺産」パンフレット作成・多言語化事業			各種パンフ・多言語版発行	
(2)活用整備		①館林市「日本遺産」案内板・サイン整備改修事業	沼サイン、プレート設置	
		②館林市まちじゅう「日本遺産」PR事業	幟・タペストリー・ステッカー作成	
		③館林市「日本遺産」麦食・川魚食文化PR事業	ポスター・パンフ・動画配信	
		④館林市「日本遺産」ガイダンスセンター映像制作事業	4Dシアター新作映像制作	
		⑤館林市「日本遺産」AR・Wi-Fi整備事業	AR里沼、Wi-Fi設置	

### 3 目標達成度

日本遺産制度では、認定から6年経過後の目標値をKPI（重要業績評価指標）として進捗管理することが求められています。日本遺産「里沼」では、①「里沼」の継承・発展、②シビックプライドの醸成、③交流人口の増加、の3つの目標に対して、〔1〕小・中学生における日本遺産「里沼」の認知度、〔2〕「里沼」関連で開発された商品・サービス数、〔3〕日本遺産への協力件数、〔4〕観光入込客数の4つの指標を設定し、経年での効果測定を行っています。認定初年度から約2年以上新型コロナウイルスによる影響等がありましたが、各指標とも着実に目標値を達成しつつある状況です。

目標	具体的効果	KPI(重要業績評価指標)			
①「里沼」の継承・発展	館林市の沼辺文化を生んだ「里沼」環境や歴史文化が適切に保存・継承され、観光・産業や人材育成などのまちづくり面での活用・発展が促進される。	区分	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
		指標	小・中学生における日本遺産「里沼」の認知度		
		目標値	平成30年度50%→ 令和6年度70%	実績値	令和3年度 61.6%
		区分	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
		指標	日本遺産「里沼」関連で開発された商品・サービス数（累計）		
		目標値	平成30年度0件→ 令和6年度30件	実績値	令和3年度 34件
②シビックプライドの醸成	館林市内に各分野の組織・団体の新たな連携体制が構築され、各事業がブラッシュアップされることで、地域住民にシビックプライドが醸成される。	区分	その他		
		指標	日本遺産への協力件数（累計） （ガイド団体+経済団体+企業+市民団体）		
		目標値	平成30年度8件→ 令和6年度33件	実績値	令和3年度 735件
③交流人口の増加	「日本遺産」を通じて館林市への来訪者のみならず、他地域・他国との交流が活発になり、交流人口が増加する。また、市民一体となった「もてなしの心」により、満足度が向上しリピート来訪者が増える。	区分	日本遺産を活用した集客・活性化		
		指標	観光客入込み数 （*沼来訪者除く。多々良沼=令和3年53万人。 ガバ沼含むと94万人）		
		目標値	平成28年168万人→ 令和6年200万人	実績値	令和3年 50万人